

茅ヶ崎セントラルクリニック

有明 知美（臨床工学科/臨床工学技士）

功 績 シャントエコーの活用拡大を主導し、患者ごとの血管走行・深さ・血流を可視化したシャントマップの作成を推進した功績。穿刺部位の判断を標準化し、刺し直しのリスクと患者の身体的・精神的負担の軽減に寄与するとともに、経験の浅い職員の穿刺支援と組織全体の技術向上に大きく貢献した。

推薦者氏名 野口伸一（事務長）

推薦理由 有明氏は、専門技術を個人の技能にとどめず、シャントマップという職種横断で共有できる形に変えた。患者の穿刺負担軽減、職員の手技標準化、新人教育に加え、シャントトラブルによる入院回避、患者の外来透析継続と当院の稼働向上に貢献した。シャントエコー件数を約35%増加させた実績も高く評価し、理事長賞として推薦します。

内 容

有明知美氏は、シャントエコーの高い技術を活かし、血管の走行、深さ、血流等を確認したうえで、患者の腕の写真に血管走行や穿刺部位を示す「シャントマップ」の作成を中心となって進めた。

透析で使用する穿刺針は太く、刺し直しは患者に身体的な痛みだけでなく治療への不安を与え、実施する職員にも大きな心理的負担となる。有明氏が作成・更新したマップを医師、看護師、臨床工学技士が共有することで、経験や感覚のみに頼らず、客観的な血管情報に基づいて穿刺部位を判断できる環境がより整備された。

これにより、穿刺時の患者負担と血管損傷リスクの軽減を図るとともに、経験の浅い職員への実践的な教育にもつながっている。また、血流低下や狭窄の兆候を早期に捉え、計画的な治療につなげることで、シャントトラブルによる入院回避にも寄与している。

シャントエコー実施件数は、2025年8月～2026年1月の月平均7.8件から、2026年2月～7月には月平均10.5件へ約35%増加した。これらの取り組みは、患者の外来透析継続と当院の稼働向上にも貢献している。